

IP通信障害対応演習
基礎知識編

目標

- IP通信網の仕組みを明確に理解する
- IP通信網の障害範囲を明確に把握する

対象

- IP通信網の理解を深めたい方
- ネットワーク設計担当者
- ネットワーク構築担当者
- ネットワーク運用管理者

必要スキル

- 自分のPCをインターネットにつなぐことができる方

持参機材

- 演習用有線LAN付きPC1台
 - WindowsPC
 - Linuxインストール済み
 - USB/SDカードからLinuxを起動して使います
 - Mac OS X
 - Linux相当と見立てて使います
 - 講義はLinux前提で進めます
 - Mac OS X固有の事柄は判りかねます
- ネット検索用端末
 - タブレット、PC等、演習中に適宜ネット検索します
 - 会場には、受講者用無線LANがあります

利用機材

- ルーター
 - 一人二台程度お貸出し
 - ヤマハルーター
 - RTX1200
 - RTX1210
 - RTX810
 - FWX120
 - RTX1100
- スイッチ
 - 一般的なL2スイッチ
- 閉域
 - 疑似フレッツ・VPNワイド
 - 疑似インターネット
- 社内ルーター経由実インターネット

IPv4障害対応の基礎知識

- IP障害のカタチ
- IP障害対応の経験則
- Linuxを使おう
- IP障害対応コマンド

IP障害対応Linux

- 起動
 - USB
 - DVD
 - メモリー
 - SD Card
- IP障害対応コマンドの確認
- ネット接続の確認

構築時障害演習

- 構築時の障害対応演習
 - 設定と障害対応
 - Linux側から見る
 - ルーター側から見る
- ネット接続環境での演習
 - プロバイダがどう見えるか
 - NAPT機能とは
- LAN側
 - LAN内接続
 - ルーター越えがどう見えるか
- WAN側
 - インターネット接続
 - IPsec VPN
 - IP-VPN接続
 - フレッツ・VPNワイド相当

文書記録

- 2015 TANIYAMA Ryoji All rights reserved.
- 2015-07-29 Rev. 1.0